



神さまの守りの中で
のびのび育つ子どもたち



宗教法人日本キリスト教団片瀬教会付属
片瀬のぞみ幼稚園
Katase Nozomi Kindergarten

片瀬のぞみだよ
り

2017年10月号

家庭通信 2017 No.

10月主題聖句

「アブラムは、主の言葉に従って旅立った。」

創世記 12 章 4 節

牧師（設置者）磯部理一郎

片瀬のぞみ幼稚園の園児の皆さん、そして保護者の皆さん、いよいよ秋の運動会も間近に迫り、益々もって、皆さんの心も身体も武者震い状態という所ではないでしょうか。こどもたちひとりひとりが、オンリー・ワンの命の輝きをそれぞれに全身全霊を尽くして神さまに現わし、御前にその喜びと感謝をご覧いただく場でもあります。そして何にも替え難い心身の成長の喜びを保護者の皆さまとご一緒に分かち合う栄光の場である、と言っても過言ではないと思います。

5歳児のはと組さんは、驚くほど逞しく成長しています。60名を超える集団の中で、お兄ちゃん、お姉ちゃんの役割を十分に果たしています。ある朝、お遊びの時、ひとりの年長児が、年少児たちのお遊びの様子を、まるで保護者がわが子を見守るようなまなざしで、じ〜っと見ている姿がありました。その「まなざし」は、大海原のように悠々と、大空のように世界を包み込むような、温かな愛情と優しさに溢れていました。僅か一、二歳差のお兄ちゃんなのに、こんなにも豊かで大きく優しい愛情に溢れて、見つめることのできるまなざしがあるんだ、と驚かされました。他方、見つめられている当のご本人たちは、何一つ気付かず、そんなことはお構いなしに、ただ無邪気に別世界で遊びに興じるばかりでした。益々双方の成長発達の段階の違いに、二度、驚かされる思いでした。一瞬のまなざしの中に、年長者

としての成長が余りにも逞しく満ち溢れている光景でした。内から漲り溢れる成長の力を実感した驚愕と感激の一瞬でした。

今月の主題聖句は「アブラムは、主の言葉に従って旅立った。」旧約聖書「創世記」12章4節が選ばれています。さらにその前後の文脈を併せて紹介しますと、「12:1 主はアブラムに言われた。〈あなたは生まれ故郷／父の家を離れて／わたしが示す地に行きなさい。12:2 わたしはあなたを大いなる国民にし／あなたを祝福し、あなたの名を高める／祝福の源となるように。12:3 あなたを祝福する人をわたしは祝福し／あなたを呪う者をわたしは呪う。地上の氏族はすべて／あなたによって祝福に入る。〉12:4 アブラムは、主の言葉に従って旅立った。」となります。つまりこの聖書箇所テーマは、アブラハムは、神さまのお約束を信じて、行き先を知らずに、神さまのみことばに従った、ということになります。

人生はしばしば「旅」に譬えられます。しかもその旅は、「行く先を知らない旅」です。悪天候で見通しの立たなくなった旅を断念し諦めるのか、或いは続けるとするなら、どう続ければよいのか。旅は断念できますが、人生という旅は放棄するわけにはゆきません。ここで、聖書が示す重要点が二つあります。一つは、神のお約束を「信じて、従った」という決断と選択です。行く先の是非を知ることはできませんが、行く先を「信じて受け入れる」ことはできます。もう一つは、「あなたを祝福し／祝福の源となる」(2節)とありますように、神さまが既に約束し行動しておられる、という事実です。神さまは最初からアブラ(ハ)ムを「祝福の源」となる、と約束されて、既にその祝福完成の姿をご計画のもとにおかれています。アブラハムが信じて従ったのは、この神の約束であり、ご計画であり、そして介入行動でした。こうしてアブラハムは、自分自身の中に神から託された祝福を信じ、神の約束を受け入れて、実質的には神と共に行動を開始したと言ってもよいのではないのでしょうか。アブラハムは旅立ちましたが、神もまたアブラハムと共に旅立っていたのです。

わたくしども片瀬教会付属片瀬のぞみ幼稚園では、毎月主題聖句のもとに、聖書の教えから保育方針の中核を確認し合います。今月は、上記の聖句から三つの要点を確認することができました。第一に、確かに園児ひとりひとりの成長や人生の行き先を知ることはできません。しかし、園児ひとりひとりの命と成長のただ中に、自ら人格を完成してゆく成長の力を、神さまは祝福の源として既にお備えくださっています。二つ目は、したがって、徹底的に成長発達の「主人公」は、園児ひとりひとり自身です。そして最後に、園児ひとりひとは、成長発達と人生の主人公であり、かつまた自らその成長を完成する力に溢れているのだから、その尊厳と確信を冒してはならない、とすることでした。だからこそ、ひとりひとり(の成長と発達)を信頼し、ゆっくり時間をかけて待ち、諦めずに忍耐強く手助けすることができます。そうでなければ、成長の主人公とその可能性を、つまりこどもの人格的主権と尊厳を、わたくしたち大人が奪い取ってしまうことになりかねません。

もうすぐ運動会です。走り始めたこどもが、突然、止まってしまい、走り続ける

ことができなくなります。しかし、止まっているように見えても、成長と競技の主人公はこども自身です。止まって動けないこどもの中には、神さまがお授けくださった自ら成長する力が湧き続けています。立ち止りながらも、こどもは自らの内に響く鼓動を聴き続けており、内から突き上げる成長の力を感じ取ろうとしています。そしてついにその力を信じ受け入れ、自らスタートのスイッチを入れて動き出すのを、わたしたちはじっと待ち続けます。同じように、こどもの内に湧き出る命の力を信じ、感じ取ることができるからです。